

山梨県中巨摩郡敷島町

遺跡詳細分布調査報告書

1 9 9 4

敷島町教育委員会

序 文

敷島町は、山梨県の北西部、県都甲府市の西隣に位置し、荒川の扇状地上に発達した町であります。

昭和53年に行なわれた金の尾遺跡の発掘調査によりまして縄文時代の住居址など多くの遺産が発見され、古くから生活の営みがあったことが明らかになりました。また、天狗沢瓦窯の発見などによりまして7世紀以降巨摩地域の中心的位置を担ったことも確認されております。

このように歴史遺産の多い町であります、近年甲府市のベットタウンとして地域開発の波が押しよせ、地中に埋もれている遺跡などに大きな影響が生じつつあります。このような現状を踏まえ、敷島町教育委員会では文化財の保護、活用と地域活性化に伴う開発とを両立させるため、この度、町内遺跡詳細分布調査を実施いたしました。この調査の結果、新たに103ヶ所におよぶ遺跡が発見されております。

今後、敷島町が文化的発展の向上を遂げる上にも、これらの文化財を保護し、活用していくことが私たちに課せられた重要な責務と考えております。

本報告書が上記目的を達成するための資料として広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後に今回の調査にたいし、ご指導、ご協力をいただきました多くの皆様に心からお礼を申し上げ序といたします。

平成6年3月

敷島町教育委員会

教育長 石橋 定弘

例　　言

1. 本書は、山梨県中巨摩郡敷島町の埋蔵文化財詳細分布調査報告書である。
2. 分布調査は、平成5年度文化財保存事業として、敷島町教育委員会が国、県の補助金を得て行なった。
3. 本書の編集は、大嶽正之（敷島町教育委員会）が行い、執筆は、第1、2、3、5、6章大嶽、第4章繩文土器を信藤祐仁（山梨県考古学協会）、土師器、須恵器、瓦を大嶽が担当した。
4. 本書の遺跡写真撮影は各担当調査員が行なった。
5. 本調査の調査員は次の通りである。（敬称略、順不同）
清水博・山路恭之助・山下孝司・信藤祐仁・和田豊・佐野隆・広瀬和弘・森原智恵子・皆川洋・小島利史・高須秀樹・三澤達也・伊藤正彦
6. 遺物整理作業については、大嶽が主体となり地元文化財調査協力員の協力を得て行なった。
7. 本書の作成にあたって、次の機関よりご指導、ご協力を戴いた。ここに記して感謝する次第である。（順不同）
山梨県教育委員会学術文化課　　山梨県埋蔵文化財センター
8. 本調査で得られた記録、遺物は敷島町教育委員会が保管している。

本　文　目　次

序　　文
例　　言
目　　次

第1章	調査に至る経緯と経過	1
第2章	地理的、歴史的概要	1
第1節	地理的環境	1
第2節	歴史的環境	2
第3章	遺跡の分布と概要	3
第4章	表　採　遺　物	5
第5章	敷島町の主要遺跡	6
第6章	ま　と　め	10

挿 図 目 次

第 1 図 敷島町位置図	2
第 2 図 表面採集遺物	7
第 3 図 天狗沢瓦窯跡全体図	9
第 4 図 (1) 遺 跡 分 布 図	15
第 4 図 (2) 遺 跡 分 布 図	16

表 目 次

第 1 表 遺 跡 地 名 表	11
-----------------------	----

図 版 目 次

図 版 1 宮地西 B 遺跡 不動ノ木 A 遺跡 不動ノ木 C 遺跡	図 版 5 上峯 B 遺跡 原 B 遺跡 内蔵 A 遺跡
図 版 2 金ノ宮 A 遺跡 前田 B 遺跡 日ノ詰 遺跡	図 版 6 村東 A 遺跡 村東 B 遺跡 西ノ原 B 遺跡
図 版 3 塚田 B 遺跡 塚田 D 遺跡 大庭 A 遺跡	図 版 7 上ノ段 C 遺跡 吉沢 A 遺跡 吉沢 B 遺跡
図 版 4 大庭 B 遺跡 笹原 遺跡 北川第 1 遺跡	図 版 8 寺平 遺跡 柳木平 遺跡 上福沢 遺跡

第 1 章 調査に至る経緯と経過

敷島町内における遺跡分布数は、昭和47年度に行なわれた遺跡分布調査により13遺跡を数える。

しかし、近年の全国レベルでの開発行為の波は敷島町においてもその例に漏れず、平成6年度より建設着手が予定されている都市計画街路愛宕町下条線は敷島町市街地のほぼ中心部を横断するかたちをとり、また県都甲府市の隣接地という条件から、ベットタウンとしての地域開発が頻繁に行なわれるようになってきた。

このように増大の一途を辿る開発事業にたいし、文化財保護の立場から敷島町教育委員会は町内各所に点在する文化財、特に開発による影響がもっとも大きいと予想される埋蔵文化財について適切な処置を講ずることがあらゆる角度から必要となってきた。しかし、前回行なわれた調査からすでに20年以上が過ぎ、現在把握しうる遺跡分布状況では近年の開発行為に対処し、文化財保護行政を行なうには不十分であった。

そこで、敷島町教育委員会は以上の状況に対処する為、国、県から文化財保存事業の補助を受け、町内遺跡詳細分布調査を実施し、埋蔵文化財の基礎的資料を作成することとした。

調査は、敷島町教育委員会が主体となり、山梨県考古学協会会員等の協力を得て行なった。

まず調査は、敷島町内を13区画に分割し、1区画1名の調査員が担当し、遺物採集、包蔵地域の写真撮影、範囲確認からカード化までおこなった。現地踏査は10月上旬より1月下旬にかけて実施し、2月上旬から3月下旬にかけて調査の整理、報告書刊行を行なった。

第 2 章 地理的、歴史的概要

第 1 節 地理的環境

敷島町は、甲府盆地の北西端部、県都甲府市の西方に隣接する。本町は、盆地北端地域から県北部に広がる山岳地域にむけて細長く帯状に町域を持ち、北緯35度39分58秒から35度48分16秒、東経138度30分7秒から138度34分4秒に位置し、総面積40.525km²を測る。

町の北方には、標高1,743mを測る茅ヶ岳、1,642mの曲岳、1,295mの太刀岡山など千m級を超す山々が点在している。これら北部山岳地域は、茅ヶ岳火山、黒富士火山といった火山群地帯の中に位置している。

本町の河川は大きく三つに分けることができる。まず、長野県との県境に位置する奥秩父山系金峰山（標高 2,595 m）に源を持つ荒川は、甲府市黒平、御岳を流れ敷島町北東端の千田、吉沢地区に至る。荒川は、敷島町牛句地区以南において扇状地を形成し、町の東端を南流する。

千田地区にある羅漢寺山（標高 1,058 m）を中心に、花崗岩を浸食しながら南流するが、この浸食作用によって形成された地形が国指定特別名勝天然記念物「御岳昇仙峠」となっている。

また、茅ヶ岳付近の山間地帯で発生した流水は南流し亀沢川となる。この川は、町のはば中央を南流し、牛句地区において荒川に合流する。

敷島・双葉両町にまたがる道尾山より発生する貢川は、敷島町大久保、天狗沢地区を流れ町西端を南流し、甲府市上石田付近において荒川に合流する。

敷島町は、町域のおよそ 8 割が茅ヶ岳、黒富士火山帯によって形成された山間地帯で、ここから南に延びた裾野が牛句付近において台地となり、約 1.5 km にわたり南に続く。これが、敷島台地である。町の南部地域は荒川によって形成された扇状地になり、この扇状地の扇頂部分、荒川右岸に町域が広がる。



第 1 図 敷島町位置図

第 2 節 歴 史 的 環 境

前節で述べたように、敷島町は北部地域が山間地帯、山間部と平地との境界付近に南北 1.5 km にわたり台地が延び、この台地より南東方向に荒川によって形成された扇状地が広がるという地形である。このような多彩な地形条件を生かして様々な歴史的遺産が確認されている。

旧石器時代に関する資料については残念ながら得られておらず、その環境を知るにはまだ至っていない。

縄文時代の遺跡は、古くは山間部にある旧清川小学校敷地内遺跡（棚木平遺跡）をはじめとして幾つかの遺跡が知られている。棚木平遺跡は勝坂期を中心とする縄文時代中期以降の遺跡であるが、本格的な調査はまだ行なわれていない。近年では、扇状地において 1977 年に発見された金の尾遺跡があり、縄文前期から後期にかけての資料が得られている。

弥生時代については前期、中期の遺跡はいまのところ確認されていないが、後期については県内でも数少ない大規模集落と墓域一体遺跡として前述の金の尾遺跡がある。また、

敷島台地据野部分に営まれた原腰遺跡でも後期の住居址4軒が調査されている。金の尾遺跡からは駿河、信濃系の土器が、また、原腰遺跡からも信濃系土器が出土し、この時期における文化、経済圏の流通過程を探る上で貴重な資料となる。

古墳時代では、荒川右岸の扇状地上に営まれた御岳田遺跡において前期の住居址、祭祀跡などが、また、金の尾遺跡でも前期の住居址が調査されている。

甲府盆地北西部は県内後期古墳群が密集しており、敷島町周辺においても甲府市北西部の千塚古墳群、双葉町から竜王町にかけての赤坂台古墳群などが点在する。町内においては、現在2基の円墳があり、いづれも荒川によって形成された扇状地上に築造されている。これらの古墳も盆地北西部の群集墳の中の一つに位置づけることができよう。

敷島台地上に構築された天狗沢瓦窯跡は7世紀後半の操業とされ、現在のところ県下最古の窯跡とされている。瓦窯跡という性格上付近に古代寺院の存在が考えられ、後期群集墳との関係からも古代甲斐国における中心的位置を占めていた可能性が指摘される。

律令体制下において、敷島町は甲斐国巨麻郡に属し、『和名類聚抄』に見る巨麻郡青沼郷の一部であったと考えられている。この時代における遺跡の調査例はまだ乏しく、時代背景を解明するだけの資料は得られていないが、大下条、中下条、島上条といった地名が示すように所謂条里制が敷かれていたと思われる。

『甲斐国志』には、16世紀に活躍をし、天正10年（1582）に織田勢によって武田勝頼とともに滅んだ武田二十四将の一人工屋惣蔵昌恒の居址が島上条地区にあったとしている。

明治4年（1871）に甲斐国は山梨県となり、町においても明治8年の村合併を始めとし、曲折を経て昭和29年（1954）に敷島町、睦沢村、吉沢村、清川村が町村合併をし現在の敷島町に至っている。

第3章 遺跡の分布と概要

今回行なわれた遺跡分布調査によって、遺跡数は、116箇所におよぶことが確認された。そこで、本章では明らかにされた遺跡について、その分布状況を地形的環境から概観することとしたい。

敷島町の地形については、第2章において述べたように主として山地、台地、低地（扇状地）とに区分することができる。現在の町内の人口密度はその大部分が低地に集中しているが、今回の調査結果から遺跡についても現在と同様に低地部分に集中していることが認められた。

山間地域における遺跡数は、合わせて6箇所を数える。北部地域は千mを越える山々が連なり、深い尾根、谷が続く。山間部の遺跡はこのような地形の中で僅かに存在する平坦

地に認められた。この地域では、いづれも縄文中期、平安の遺物が発見され、また、平安以降の物も確認されている。この地域における地形的特色が縄文時代の経済的生活環境に適していたということになろう。平安時代以降については、発掘調査等による基本的資料が得られていない段階で、確かなことは言えないが、天正19年に書かれた加藤光泰印判状（打返以北十二箇村共有文書）や浅野長政印判状写、万治元年の入会に関する文書などに、城や屋敷嘗請において打返以北十二箇村（現在の睦沢、清川地区）の袖が召使われ、このため諸役免除となった旨が記され、また、武田晴信印判状（桑原彦次家文書）には漆製品を作り、納めた旨の史料があり、現在も漆戸という地名が残る。このように16世紀以降の史料ではあるが地形的特色を生かした職業がこの地域にあったことが認められ、即ちこのことは職人集団の存在を考えなければならず、今回の調査で得られた資料との関連性も含めて、山間地域における平安時代以降の歴史的様相の解明が課題となる。

台地における遺跡分布数は21箇所を数える。山間部から台地に移行する大久保、牛句地区の南斜面において丁度台地を囲むようにして縄文後期の遺跡分布地域が5箇所認められる。台地の西側部分において古墳時代の遺物分布地域が2箇所で認められた。また、台地中央部から南域にかけて奈良、平安時代の遺物分布地域が縄文時代との重複場所も含めて13箇所確認された。特にこの地域は、後述する天狗沢瓦窯跡が7世紀後半において操業された場所であり、瓦工集団に関する遺跡や倉庫など付属施設の存在を考えるうえで貴重な資料を得ることになった。

今回の分布調査の結果、町内に分布する遺跡の約8割が荒川によって形成された扇状地上に分布することが明らかとなった。この内縄文時代の遺物分布地域は11箇所で確認されているが、低地全体の遺跡分布数から見ると、割合は低くなっている。荒川右岸の川辺町地区、更に南に進み町屋地区においてまとまって分布していることが明らかになった。町屋地区は現在、町の中央やや東よりに位置し、荒川との距離は約500mであるが今回の調査で川辺町地区付近を頂点とした二等辺三角形状に遺跡空白地帯（第4図参照）が看取され、また、昨年行なったこの地域での試掘調査の結果も鑑みて長塚地区北側部分より東町東地区にかけて荒川の流れがあったと思われ、今回確認された町屋地区の不動ノ木遺跡外と荒川との当時の距離は川辺町地区的塚田遺跡群とはほぼ変わらないものと思われる。

低地部分の南側、中下条地区と大下条地区の境界線を中心に大下条遺跡群をはじめとし、古墳時代から平安時代にかけての遺跡分布地域が広範囲に渡り密集して発見されている。この部分は、敷島町においても数少ない平坦地形を成し、律令体制以降の条里制が置かれた中心地域と言える。

分布調査の結果、古墳時代以降この地域においては継続的に集落などが営まれていた可能性が強く、特に奈良、平安時代の律令体制下での甲斐国様相を探る上で大変重要な地域となろう。

この低地については、近年宅地化が急速に進み、今回の調査で発見された以外にも多くの遺跡が存在したと推察される。

最後に敷島町全体の遺跡分布状況をまとめておきたい。

時代的には古墳、奈良、平安時代の遺跡が多く、これに比べ縄文時代の遺跡は少数であり、中、近世は極僅かであった。古墳は2基を数えるのみである。

地形的に見ると山間部から台地にかけて、また、低地部で荒川に極近い地域で縄文時代の遺跡が多く、台地、低地において古墳、奈良、平安時代の遺跡が急増する。中世以降の遺跡は極端に少なくなる。これは、中、近世の遺跡面と現在の生活面とがほぼ同じレベルで重複してしまっているものと思われ、現在の集落の基盤がこの時期に成立したものと考えられよう。

第4章 表採遺物

1. 土師質上器の口縁部である。推定口径12.1cmでやや丸味をもちながら立ち上がり、口縁部は丸味をおびる。色調は明茶褐色を呈し、胎土は緻密である。
2. 土師器の壺または、甕の口縁部である。推定口径14.9cmで大きく外反しながら立ち上がり、口縁へといたる。口縁部は丸味をおびる。色調は暗茶褐色を呈し、胎土は緻密で、口辺部外面は横方向にナデ成形、内面は横方向にハケ目が施される。
3. 須恵器長頸瓶の頸部である。内外面とも横方向にナデが施され、肩部には、淡緑色の自然釉が一部看取できる。色調は暗灰色を呈し、胎土は緻密で長石を含み焼成は良好である。
4. 口縁に沿ってR Lの単節縄文が施文されその下に平行沈線がめぐり、さらにその下は無文帶となっている。口唇がとがり内湾する口縁部で、内面には稜線がつく。4.7.8.10とともに縄文時代中期初頭の上器である。
5. 表面のあれた無文土器の口縁部のようだが、横位にめぐる隆帯がはがれ落ちた痕跡が見られる。内面は横ナデによる調整痕が明瞭。
6. 地文の横位R L単節縄文に、粘土紐が半截竹管状工具によって押さえ貼りつけられた結節浮線文が施文されている。胎土は緻密で細かな雲母が目立つ。縄文時代前期終末の十三菩提式土器である。
7. 垂下する平行沈線間に、同一施文具による斜めの平行沈線が施される縄文土器で、赤褐色を呈し、胎土は石英や長石のほか黒色の砂粒が含まれている。
8. 口縁に沿って平行沈線がめぐり、その下に平行沈線による区画を設け、中を集合沈線で埋めている。口縁部文様帶部分は内湾するが、口端で外反する器形。黒褐色を呈し白色と黒色の砂粒が目立つ。
9. 土師質の皿である。推定口径11.4cmで色調は淡白褐色を呈し、薄手で焼成は良好である。

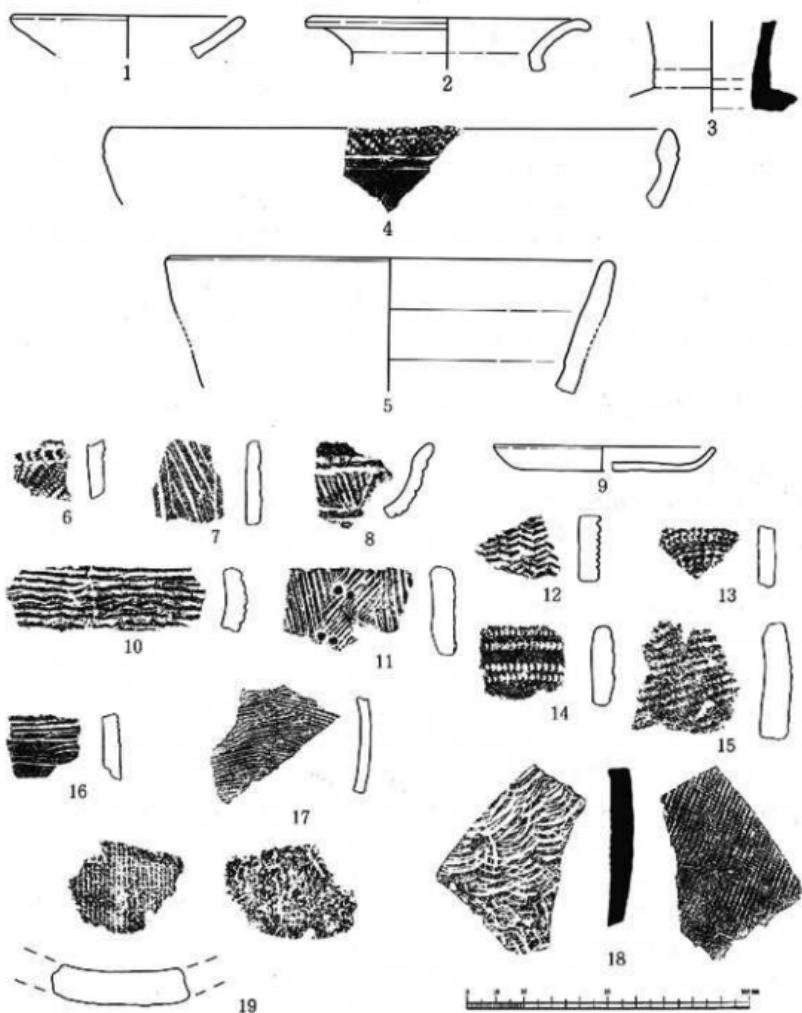
10. 繩文土器片で半截竹管状工具による横位の平行沈線の上に、重ねて波状の平行沈線が施文され、平行沈線間は断面がかまぼこ状を呈す。口縁部を欠く口辺部。内面は赤褐色で外面は茶褐色と黒褐色。
11. 矢羽状の平行集合沈線を地文とし、その上に2個1単位の円形貼付文が付けられた繩文前期後半諸磯C式の土器である。赤褐色を呈し黒色の結晶粒子が含まれている。
12. 平行集合沈線によるジグザグの文様が、半截竹管状工具によってつけられている。施文圧力が強いため断面はかまぼこ状を呈している。繩文時代中期初頭の土器。
13. 結節沈線状または弧状の平行する刺突が、半截竹管状工具によって弧を描いて連続している。胎土は緻密で焼成良好。諸磯C式。
14. 内面に結節沈線が4条めぐる浅鉢の口縁。文様の付けられている部分は肥厚し表面は無文。繩文中期初頭の土器。
15. RLの単節繩文の施文された深鉢の胴部。暗茶褐色で、胎土は長石・石英・雲母などの砂粒を多量に含む。繩文時代中期。
16. 半截竹管状工具による平行沈線が横走する。胎土は緻密で焼成良好。繩文時代前期諸磯式土器。
17. 土師器甕の体部である。外面はハケ目が明瞭に残り、内面は磨きが施されている。焼成は良好である。
18. 須恵器甕の体部である。外面は格子目の叩きがあり、叩きの後にナデが施される。内面は青海波状文の叩き目が看取できる。色調は青灰色を呈し、長石を若干含む。焼成は良好である。
19. 女瓦で、凹面に布目が見られ、凸面は粗れているため、叩き具の痕跡は不明である。胎土は長石、石英が多く含まれ、色調は淡赤褐色で焼成は不良である。

第5章 敷島町の主要遺跡

金の尾遺跡

金の尾遺跡は、敷島町の最南端、JR中央本線竜王駅北方約400mに位置する。敷島町東部を南流する荒川の扇状地で、荒川右岸の自然堤防上に形成された遺跡である。

本遺跡は、1977年に中央自動車道建設に伴い発見されている。金の尾遺跡の範囲は過去における試掘、発掘調査及び今回の分布調査の結果から南北約0.4km、東西約0.3kmにおよぶことが確認された。発掘調査はこれまでに4回に亘り行なわれ、特に1978年の第1次調査と1993年に隣接地で行なわれた第4次調査では弥生時代後期前半の方形周溝墓合わせて26基、同時期の住居址33軒を中心に繩文時代前期から後期にかけての住居址8軒、古墳時代前期の住居址1軒、土坑、溝状遺構などが多数確認された。



- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------------------|--------|---------------------|--------|
| 1 村上H遺跡 | No.43 | 5・17・18 石原田B遺跡 | No.94 | 12 塚田C遺跡 | No.84 |
| 2 松ノ尾遺跡 | No.63 | 6 不動ノ木A遺跡 | No.73 | 13・14・16 大塚遺跡 | No.106 |
| 3 松ノ尾C遺跡 | No.65 | 9 上福沢遺跡 | No.116 | 15 上ノ段B遺跡 | No.122 |
| 4・7・8・10 塚田A遺跡 | No.81 | 11 塚田C遺跡 | No.83 | 19 寺平遺跡 | No.113 |

第2図 表面採集遺物

縄文期に関しては、中期中葉の藤内Ⅱ式期および中期終末の曾利Ⅴ式期の住居址を中心に、前期の十三菩提式期の住居址が確認されている。土器については、前期では諸磯b, c式、十三菩提式を中心に、大部分が破片であるが五領ヶ台式土器も確認されている。中期では遺構と時期は重なり、藤内Ⅱ式、曾利Ⅴ式が認められ、後期においては少數であるが、称名寺式、堀の内式土器が出土している。

本遺跡の中心をなす弥生期では、後期の住居址33軒を数え、県内でも規模の大きい集落に属すると言える。第1次調査では、焼失住居（16号住居址）中から炭化材と共に炭化米も発見されている。

遺物については、住居址や周溝墓を中心に甕、壺、高坏などの土器類が多く出土し、分類などから箱清水式や伊場式、尾ノ上式などの影響が指摘されている。

天狗沢瓦窯跡

天狗沢瓦窯跡は、茅ヶ岳南麓を南流する貢川と金峰山を源とする荒川によって形成された通称敷島台の南西縁部分に位置し、標高342mを測る。遺跡西側は貢川によって深い谷状地形を呈しており、川を渡り右岸は双葉町登美台地、更に南に竜王町赤坂台地が続き、山梨県内における後期古墳の群集地域となっている。

本遺跡における調査は、1986年から88年にかけて継続的に行なわれ、この結果3基の登り窯跡や溝跡、更に夥しい数の瓦や土器が出土した。

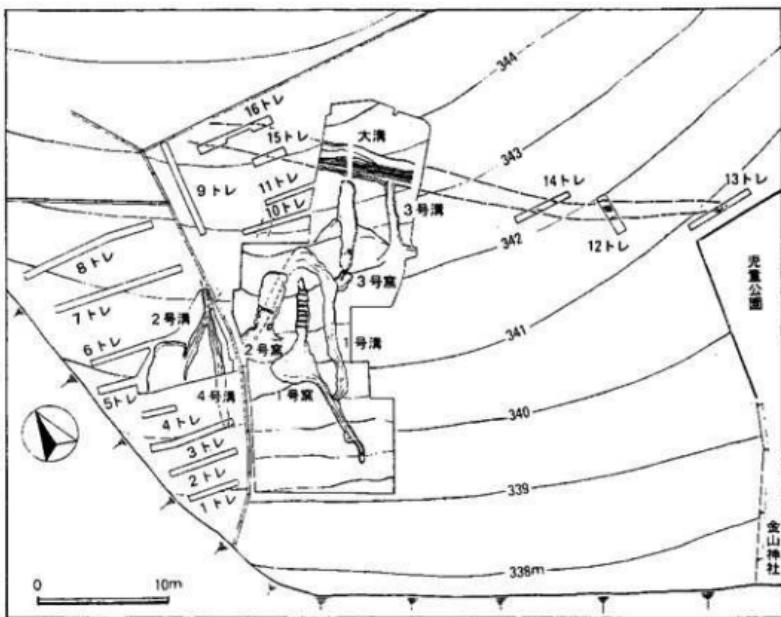
1号窯は地下式無階有段登り窯で天井部と煙道部については搅乱が著しく、構造等は明確にされなかったが、その外の燃焼部、焼成部、灰原等は良好に保たれており、規模は前庭部から焼成部までが8.5m、前庭部から焼成部最上段までの比高差は2.1mを測る。

2号窯は半地下式無階無段登り窯で、後に有階に修築した痕跡が認められる。耕作による削平によって残存状況は悪く、規模は確認できる範囲で焚口部から焼成部まで4.6m、焚口部から焼成部最上面までの比高差は0.75mを測る。

3号窯は半地下式無階無段登り窯で、表土より僅か0.3mで床面を確認している。このことから天井部や壁面の殆どが地上に露出していたと思われ、耕作等による削平によってこれらの箇所の確認には至らなかった。

遺物については、その大部分が瓦で占められ、鎧瓦、男瓦、女瓦、隅切り瓦、熨斗瓦の各種が出土した。字瓦については明確になるものは出土していない。鎧瓦については、瓦当文様から素縁で中房蓮子1+6の素弁八葉蓮華文と有段縁で中房蓮子1+6の素弁八葉蓮華文の2種類が確認されている。この他土器では須恵器甕、甕、壺、高坏、罐、瓶、鉢、圓脚円面鏡片などの出土を見た。尚、窯跡の年代は7世紀後半としている。

本窯跡の調査は、県内における本格的古代窯調査の初例と言っても過言ではなく、また、県内初見の意匠を持つ鎧瓦の出土をはじめとして甲斐国古代史解明に大きな資料を提示する結果となった。



第3図 天狗沢瓦窯跡 全体図

御岳田遺跡

御岳田遺跡は、敷島町東部を南流する荒川の扇状地で、荒川右岸の自然堤防上に形成された遺跡である。前述した金の尾遺跡の丁度北方に位置する。

本遺跡は、1992年に発見され、翌93年発掘調査が行なわれている。遺跡の性格は集落遺跡であり、古墳時代前期、五領式期の住居址2軒、平安時代前期住居址1軒、平安時代後期住居址3軒、祭祀遺構2箇所（内水辺の祭祀1）、溝状造構などが確認されている。

遺物については、各住居址よりその時代に相当する台付甕、壺、高壺、壺などが確認されている。また、六角柱状の原石を含む水晶が11点出土しており、内2点に加工痕が認められる。加工痕を有する水晶のうち1点は円形状を呈しており、玉類の半加工品としてよかろう。

これまでのところ敷島町では、平安時代に関する調査例は稀少であり、本遺跡の調査によって、件数は僅かであるが平安時代史解明の資料を得ることができた。又、水晶については、共伴する遺物から古墳時代前期のものと思われ、遺跡付近において水晶産出地域がなく、半加工品が出土したことなどからこの近辺に古墳時代における装飾品、石器等の加工施設があった可能性がつよくなかった。

第6章　まとめ

今回の分布調査によって、116箇所にのぼる遺跡を発見することができ、多くの成果を得ることができた。遺跡分布地域などの詳細については、すでに第4章以降で述べたが、最後にまとめをしておきたい。

昭和47年の文化庁編集『全国遺跡地図19山梨県』において敷島町の遺跡数は僅かに13を数えるのみであった。今回の調査によって遺跡数は約9倍に増加したことになる。時代が重複して確認されている遺跡も含めて内訳は、縄文時代29、弥生時代1、古墳時代53、奈良、平安時代70、中、近世10であった。

全体的には、縄文、弥生時代の遺跡が比較的少なく、古墳、奈良、平安時代の遺跡が多くなる。敷島町の位置する甲府盆地北西部周辺の後期群集墳の分布状況とあわせ見ると、分布調査結果では古墳時代中、後期において豪族を中心とした地域集団が形成され、発展して天狗沢瓦窯の構築へと進み、その後律令体制のもと大下条、中下条地区を中心に条里制がとられ一層中心的地域に発展していったものと思われる。地形から見ると、山間地から台地にかけて縄文、台地から低地にかけて古墳から平安の遺跡になり一般的な傾向と言えよう。

遺跡No.113の寺平遺跡で採集された瓦については、残存状態が悪く、天狗沢のものか判断するのは大変困難である。又、1点しか出土しておらず、寺院との関連については、今後の課題となる。

これまで知られていなかった低地部分での遺跡の発見など多くの新資料を得ることができたとともに、山間地域での平安時代以降の歴史的環境や低地における古墳時代以降の集落や条里、郡、郷の様相、そして確認された遺跡の保護など新たな課題も提示された。

今回の調査では比較的、台地、低地での確認はしやすかったものの、深い尾根、谷につつまれた北部山林地帯や水田などでは確認しにくく、さらに遺跡数が増加する可能性も予想される。本調査の成果は敷島町はもとより、山梨県における歴史学、考古学研究の基礎的資料となり、また、本書が今後の埋蔵文化財の保護や地域開発の調整などに役立てていただければ幸いである。

最後に、今回の調査に際してご指導、ご協力を頂いた関係各位に心から感謝申し上げ、まとめとする。

第1表 遺跡地名表

No	遺跡名	所 在 地	時 代(時期)	備 考
1	深田A	大下条 391-3 外	古墳	散布地
2	深田B	大下条 339	"	繩文
3	深田C	大下条 345	"	繩文
4	末法	大下条 193	"	古墳
5	深田D	大下条 408	"	繩文
6	金の尾	大下条 606-1	"	繩文・弥生・古墳 78, 90, 92, 93年調査
7	御岳田	大下条 950	"	古墳・平安・中世 93年調査
8	泉尻A	大下条 441	"	古墳
9	泉尻B	大下条 500	"	弥生・古墳・中世
10	村上A	長塚 161	"	古墳
11	村上B	長塚 159	"	古墳
12	村上C	長塚 158	"	古墳
13	村上D	長塚 158	"	平安・中世
14	村上E	長塚 144	"	平安・近世
15	村上F	長塚 127-1	"	古墳・中世
16	中沢A	長塚 72	"	平安
17	中沢B	長塚 58	"	繩文
18	中沢C	長塚 62	"	平安
19	大下条第1	大下条 88	"	古墳
20	大下条第2	大下条 105	"	古墳
21	大下条第3	大下条 153-1	"	古墳
22	大下条第4	大下条 151-1	"	古墳・平安
23	大下条第5	大下条 135-1	"	古墳・平安
24	大下条第6	大下条 136-1	"	平安
25	中沢D	長塚 81	"	古墳
26	中沢E	長塚 93	"	古墳
27	大下条第7	大下条 83	"	古墳・平安

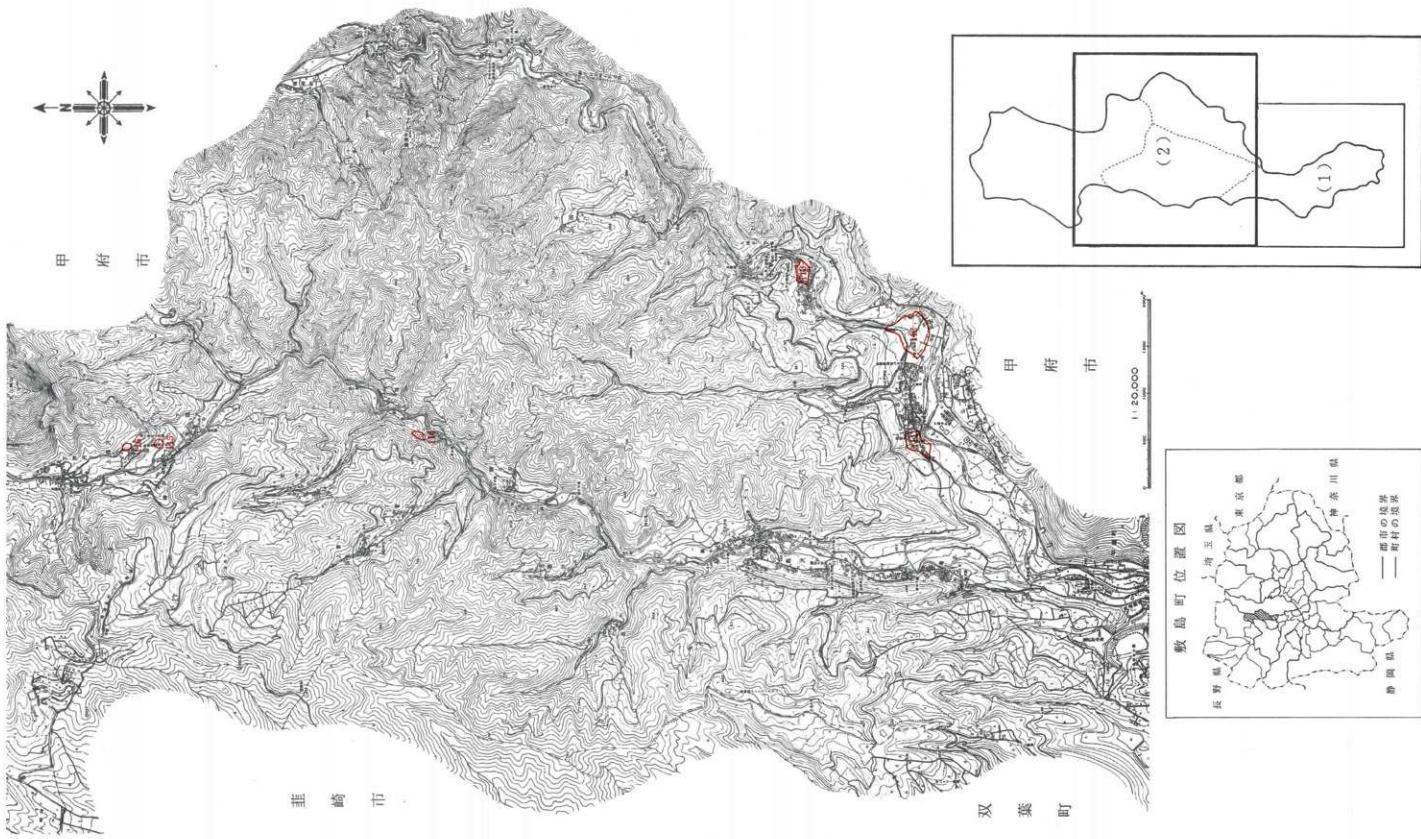
No.	遺跡名	所 在 地	時 代(時期)	備 考
28	大下条第8	大下条120-1 外	古墳	散布地
29	大下条第9	大下条35 "	古墳	"
30	大下条第10	大下条78 "	古墳	"
31	大下条A	大下条54 "	古墳・平安	"
32	大下条B	大下条39 "	古墳	"
33	大下条C	大下条45 "	古墳・平安	"
34	冷田A	中下条1845 "	古墳	"
35	冷田B	中下条1875 "	古墳	"
36	大下条D	大下条25 "	古墳	"
37	冷田C	中下条1871 "	古墳・平安	"
38	冷田D	中下条1896 "	古墳	"
39	冷田E	中下条1899 "	繩文・古墳	"
40	村上G	長塚129-3 "	古墳	"
41	中沢F	長塚16 "	繩文・古墳	"
42	中沢G	長塚34 "	古墳	"
43	村上H	長塚256-1 "	古墳	"
44	村上I	長塚247 "	平安	"
45	村上J	長塚187 "	古墳	"
46	村上K	長塚215-3 "	平安	"
47	寺前	中下条1394 "	繩文	"
48	御証作A	中下条1475 "	繩文・古墳	"
49	御証作B	中下条1456 "	奈良	"
50	松ノ尾	大下条1094 "	古墳・平安	"
51	松ノ尾A	大下条1159 "	古墳・奈良・平安	"
52	松ノ尾B	大下条1028 "	古墳	"
53	松ノ尾C	大下条999 "	奈良・平安	"
54	御岳田A	大下条970-3 "	古墳	"
55	三味堂A	中下条910 "	平安	"
56	三味堂B	中下条966 "	奈良・平安	"
57	冷田F	中下条1829 "	古墳	"

No.	遺跡名	所 在 地	時 代(時期)	備 考
58	宮地西A	中下条 1508	外 古墳・奈良	散布地
59	宮地西B	中下条 1557	" 繩文・平安	"
60	不動ノ木A	中下条 1634-1	" 繩文・古墳	"
61	不動ノ木B	中下条 1595	" 奈良・平安	"
62	不動ノ木C	中下条 1641-1	" 古墳・奈良	"
63	前田A	中下条 1292	" 古墳	"
64	金ノ宮A	中下条 568-1	" 奈良・平安	"
65	前田B	中下条 1176	" 奈良	"
66	日ノ詰	中下条 713-12	" 古墳	"
67	中更	中下条 311	" 平安	"
68	塚田A	島上条 1632	" 繩文・古墳・奈良	"
69	塚田B	島上条 1619	" 繩文・中世	"
70	塚田C	島上条 1718	" 繩文・奈良	"
71	塚田D	島上条 1746	" 繩文・古墳・平安	"
72	大庭A	島上条 1345	" 古墳	"
73	大庭B	島上条 1366	" 奈良	"
74	大庭古墳	島上条 1441	" 古墳	円 墳
75	山宮地A	島上条 1256-1	" 奈良・平安	散布地
76	塚田E	島上条 1670	" 奈良・平安	"
77	山宮地B	島上条 1145	" 繩文・古墳	"
78	山宮地C	島上条 1125	" 平安	"
79	石原田A	島上条 477	" 繩文	"
80	村続	島上条 434	" 奈良・平安	"
81	石原田B	島上条 593	" 古墳・奈良	"
82	金ノ宮B	島上条 680	" 繩文	"
83	原A	島上条 2764	" 奈良・平安	"
84	天狗沢瓦窯跡	天狗沢 291	" 奈良	86~88年調査
85	笹原	天狗沢 54	" 奈良・平安	散布地
86	上峯A	天狗沢 264	" 平安	"
87	北川第1	天狗沢 283	" 平安	"

No.	遺跡名	所 在 地	時 代(時期)	備 考
88	上峯B	天狗沢 136 外	奈良・平安	散布地
89	西ノ原A	境 885	“ 中世	“
90	上峯C	天狗沢 145-1	“ 奈良	“
91	原B	島上条 2801	“ 奈良・平安	“
92	北川第2	天狗沢 436	“ 奈良・平安	“
93	大塚	島上条 1729	“ 繩文	“
94	大塚古墳	境 256	“ 古墳	円 墳
95	内蔵A	境 1000	“ 奈良	散布地
96	内蔵B	境 1018	“ 古墳	“
97	村東A	大久保 1323	“ 古墳	“
98	村東B	大久保 1294	“ 古墳	“
99	村東C	大久保 1371	“ 平安・中世	“
100	村東D	大久保 1406-2	“ 平安	“
101	上ノ段A	大久保 903	“ 近世	“
102	峯A	牛句 2806-2	“ 奈良・平安	“
103	西ノ原B	境 921	“ 繩文・平安	“
104	宮前A	牛句 2307	“ 繩文・奈良	“
105	峯B	牛句 2606	“ 繩文	“
106	峯C	牛句 2677-1	“ 中世	五輪塔
107	村元	牛句 2021	“ 繩文	諏訪神社 石棒
108	宮前B	牛句 2197	“ 平安	散布地
109	上ノ段B	大久保 871	“ 繩文	“
110	上ノ段C	大久保 886	“ 繩文	“
111	吉沢A	吉沢 782	“ 繩文・奈良・平安	“
112	吉沢B	吉沢 965	“ 繩文・奈良・平安	“
113	寺平	吉沢 3523	“ 繩文・奈良・平安	“
114	芝田	亀沢 6406	“ 繩文	“
115	棚木平	上福沢 124	“ 繩文・平安・中世	“
116	上福沢	上福沢 272	“ 平安・中世	“



第4図 遺跡分布図(1)



第4図 遺跡分布図 (2)

NO.59 宮地西B遺跡
(縄文・平安)



NO.60 不動ノ木A遺跡
(縄文・古墳)



NO.62 不動ノ木C遺跡
(古墳・奈良)



図版 2



NO.64 金ノ宮 A 遺跡
(奈良・平安)



NO.65 前田 B 遺跡
(奈良)



NO.66 日ノ詰 遺跡
(古墳)

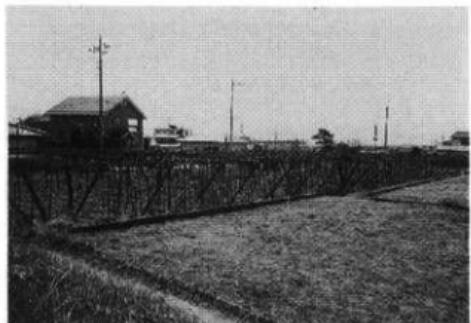
NO.69 塚田 B 遺跡
(縄文・中世)



NO.71 塚田 D 遺跡
(縄文・古墳・平安)



NO.72 大庭 A 遺跡
(古墳)



図版 4



NO.73 大庭 B 遺跡
(奈良)



NO.85 笹原遺跡
(奈良・平安)



NO.87 北川第1遺跡
(平安)

図版 5

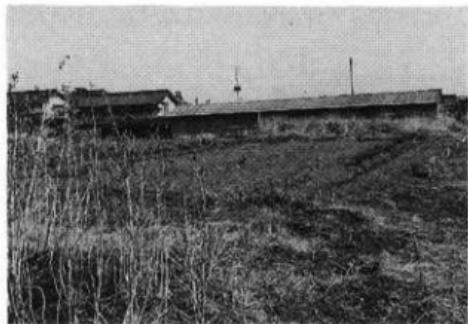
NO.88 上峯 B 遺跡
(奈良・平安)



NO.91 原 B 遺跡
(奈良・平安)



NO.95 内藏 A 遺跡
(奈良)



図版 6



NO.97 村東 A 遺跡
(古墳)



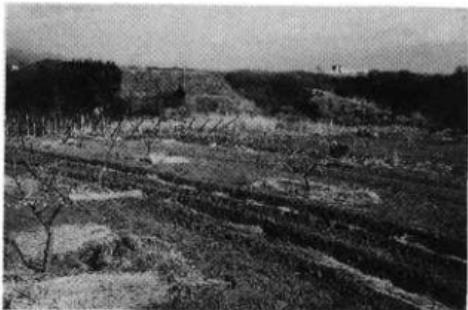
NO.98 村東 B 遺跡
(古墳)



NO.103 西ノ原 B 遺跡
(縄文・奈良)

図版 7

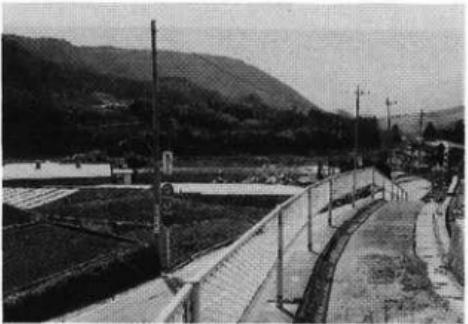
NO.110 上ノ段C遺跡
(縄文)



NO.111 吉沢 A 遺跡
(縄文・奈良・平安)



NO.112 吉沢 B 遺跡
(縄文・奈良・平安)



図版 8



NO.113 寺平遺跡
(縄文・奈良・平安)



NO.115 樹木平遺跡
(縄文・平安・中世)



NO.116 上福沢遺跡
(平安・中世)

敷島町文化財調査報告書第4集
遺跡詳細分布調査報告書

発行日 1994年(H6)3月1日
編集 敷島町教育委員会生涯教育課
発行 敷島町教育委員会
山梨県中巨摩郡敷島町島上条1020
TEL 0552-77-4111
印刷 有限会社 佐藤印刷企画
山梨県中巨摩郡敷島町長塚428-2
TEL 0552-77-7858

